

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものであるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホーム くりの
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	始良郡湧水町米永181-1
記入者名 (管理者)	松下 陽一
記入日	平成 年 月 日

1階 ゆり ユニット

地域密着型サービス評価の自己評価票				
(<input type="checkbox"/> 部分は外部評価との共通評価項目です)				取り組んでいきたい項目
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「このホームがあなたにとって最高の我が家となりますように私たちがあなたにとって真の家族となれますように」を基本理念とし、「今日も1日笑顔で・ありがとうの心が通い合う・地域社会の人々とともに楽しい暮らしを目指します」を活動目標に掲げ取り組んでいる。		
	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、開設当初よりホーム内の数箇所に掲示して、管理者及び職員に浸透・共有を図っています。日々の取り組みとして「家族ならどう接するか」を念頭に、入居者の訴えを良く聞く姿勢で取り組んでいる。	○	自分だったらどうして欲しいか、また自分の家族だったらどうして欲しいか、自分の嫌いな事は利用者も嫌いなんだという事をいつも事ある事に職員に浸透するように心掛けている。
	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	機関紙「ほほえみ通信」を季節毎に発行して、地域・家族に理念の浸透を図っている。	○	機関紙「ほほえみ通信」を季節毎に発行しているがそれには毎回理念と活動目標を掲げている。それを発行の度、地域、家族、又行政の関連個所等に配ったりしている。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常の散歩、外出時に地域の方々と挨拶を交わし、時には立ち寄りお茶をいただいたりしている。		
	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への入会や地域のイベントにも積極的に参加して交流を図っている。地域の花園への散歩見学・豊祭相撲大会・県下一周駅伝大会応援等、地域とのふれあいを大切にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献	認知症サポーターのキャラバンメイト研修にく数名の職員が積極的に参加し、地域の高齢者への暮らしを支える手段となるよう取り組んでいる。	○	来月も数名の職員が研修に参加する予定である。
	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用	職員には外部評価の意義や利点等を事ある毎に具体的に説明し、理解を深めるよう心掛けている。	○	認知症ケアに対して、初心者もいる為、今後も外部評価を含めて初歩から取り組んでいきたい。
	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
8	○運営推進会議を活かした取り組み	2～3ヶ月に1回運営推進会議を開催して、運営体制・入居者状況・サービス内容・地域との関わり方等を報告し、それについての意見を受け入れ、サービス向上に活かしている。	○	行政と連携を図りつつ開催し、意見や指導を受けながら、サービス向上に努めている。
	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
9	○市町村との連携	毎月、地域包括支援センター主催の研修会への参加することで行政とも連携する機会を作っている。		
	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用	研修会等に参加して学ぶ機会を持っています、研修後に全職員に報告し制度の理解につなげている、今後必要な方には活用していきたい。	○	成年後見人制度については、当面、該当する利用者もなかった為、研修の機会を設けなかった。今後折をみて研修したいと思う。
	管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			
11	○虐待の防止の徹底	研修会等に参加して学ぶ機会を持っています、虐待のニュース等ケア会議で話し合い防止に勤めています。近く高齢者虐待について研修を計画している。	○	身体的な虐待のみならず、言の虐待もある事を全ての職員が周知し、防止に取り組んでいる。
	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得	重要事項説明書や契約書を十分に説明して、理解と納得を図っています。		
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
13	○運営に関する利用者意見の反映	平常のケアの中で、利用者の表情を読み取りながら、不満、苦情が無いかを確認している。意見の言えない利用者に対しては特に注意深く観察しながら対応している。		
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	○家族等への報告	利用者ごとに決められた担当職員が、毎月、ご本人の暮らしぶりや健康状態などをそれぞれのご家庭に発信報告しています。金銭管理についても、領収書を添付の上で報告して、適切な管理に努めている。		
	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている			
15	○運営に関する家族等意見の反映	ご意見箱の設置や年1回の家族会の開催、また家族の面会時に声かけて、ご意見、不満、苦情が無いかを伺って運営に反映させるように努めている。	○	家族が面会時、利用者のご不満やご意見がないか伺ったり、家族に利用者の細かい情報も伝えている。
	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
16	○運営に関する職員意見の反映	職員会やケア会議に限らず、いつでも業務がスムーズに流れるよう、運営者並びに管理者は何でも話しやすい雰囲気作りに努めている。	○	社長が職員一人ひとりと面談して、職員の意見や要望を聞く機会を設けたり、管理者も職員と社長・施設長との双方のパイプ役として、意見・提案等反映させるよう努めている。
	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている			
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整		○	地域性や季節的な、職員の個々の理由等の連休希望も、職員間の協力を得つつ、調整・対応している。
	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている			
18	○職員の異動等による影響への配慮	平常より各ユニットの職員の交流がなされているので異動はスムーズに行われている。新しい職員も利用者が慣れてくれるよう早い段階から業務に組み入れている。		
	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<input type="checkbox"/> 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ケア会議を開催しており、その中に勉強会を設けたり、又さまざまな委員会を設置して色々な取り組みを行っている、また地域包括支援センターの研修会に積極的に参加しています。新人職員については、段階に応じて育成できるように努めている。	<input type="checkbox"/> 新人職員とベテラン職員の組み合わせや質の向上委員会の設置・勉強会の開催等又月に2回県の指導者を招いて、職員育成に取り組んでいる。
20	<input type="checkbox"/> 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は色々の研修に随時参加し交流を深めている。又包括支援センター主催の研修会にも管理者や職員が参加しており、他施設と情報交換し向上に努めている。	<input type="checkbox"/> 管理者が実践リーダー研修会で知り合った他ホームの管理者とも相互訪問を実施している。
21	<input type="checkbox"/> 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は不定期であるが職員との親睦を深め、交流する機会を設けている。そこでは何でも言い合える雰囲気作りに努めている。	<input type="checkbox"/> 互助会を活用し、職員の慰安旅行を計画している。又来年度より一泊旅行に向けても計画が進行中である
22	<input type="checkbox"/> 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者や職員が積極的に且つ向上心をもって働けるよう、研修や勉強会に参加できる環境作りに努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<input type="checkbox"/> 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族から不安な事や困っている事を分には十分に把握した上で、ご本人からも不安なことや困っている事、要望を聴き、新しい環境に融けこめるよう細心の対応をする。	
24	<input type="checkbox"/> 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に訪問や見学をして頂き、家族の思いを十分に傾聴し全てを受け止めた上で、ホームの良さを理解して頂く。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援	利用者、家族共に一番必要とし、求めているケアは何であるかを把握し、それに添った対応をしている。		
	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
26	○馴染みながらのサービス利用	ご家族や本人の見学や訪問を重ねながら徐々に馴染みの関係を重ねてホームの良さを感じて頂く。ご本人や家族のご希望で体験入所も実施している。		
	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係	利用者は、自分のできる事、得意なことを職員と一諸に楽しみながらやっており、又時には職員に教えたりとそれぞれの人生における先輩としての自覚と自信を持てるよう支援している。		
	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			
28	○本人を共に支えあう家族との関係	家族会の結成や各行事への参加等、利用者を中心に一緒に支えていく取り組みをしています。	○	職員は家族と共に常に情報を共有し、双方で利用者を支えていく。
	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている			
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援	毎月の家族へのお便りを通じて、利用者の日常生活を理解して頂き、ご家族の協力を得ながらより良い関係を築くよう努めている。		
	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している			
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援	気軽に面会に来られる雰囲気作りや自宅・馴染みの場所へ出かける等取り組んでいる。面会時は居室で一緒にお茶を飲んだり、又外出したりと本人が楽しく居心地良い場所や時間を提供している。		
	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			
31	○利用者同士の関係の支援	利用者同士は一緒に散歩に行ったり、ゲームをしたり、又洗濯物を室内に届けるなど互いに支え合っている。	○	トランプ。ボール遊び。パズル。野菜の収穫。下ごしらえ。食事の配膳、下膳。。。。
	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み	入院退去の場合は見舞いに行ったり、家族と連絡を取り合ったりして退去後の情報も把握している。又時にはホームを訪問されたりと関係を断ち切らないつきあいが続いている。		
	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握	利用者の食べたい食材を買ってきて食事時に提供したり、又ドライブ、墓参り等の希望に添えるよう配慮している。	○	外食やドライブ等、1人ひとりの希望に沿った支援を、もっと積極的に取り組んでいきたい。
	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
34	○これまでの暮らしの把握	家族等の面会の時などにこれまでの生活歴や、利用者を取り巻く環境などの情報を把握するよう努めている。		
	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
35	○暮らしの現状の把握	利用者一人一人が心身共に一番安心且つゆつくり暮らせる環境作りに努め、行事等も強要することのないよう努めている。		
	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画	ケアプランは利用者の24時間を観察し、本人の必要とするケアをご家族の合意を得ながら、又職員の意見も取り入れて作成している。		
	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
37	○現状に即した介護計画の見直し	必要に応じてケアプランは見直している。又ケア内容については家族に説明し了解を得、更にご家族より要望があった場合もケアプランに盛り込みそれに合った支援をしている。		
	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映	記録はケアプランに添ったケアの記録をしている。又異変や気づきを個人記録にて情報共有し注意を喚起している。		
	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況・思いに応じて、医療機関や行政との連携、また通院や送迎等、柔軟な支援を行っている。		
	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
40	○地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて関係機関の協力を得て支援している。	○	栗野中学の生徒によるボランティアや地域住民のその時々々の状況に応じて対応している。
	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している			
41	○他のサービスの活用支援	地域包括支援センターへの毎月の研修時に、地域の他施設等のケアマネージャーや看護師等と交流する事により連携を図っている。		
	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働	毎月管理者並びに他職員が地域包括支援センター主催の研修会へ参加して協働を図っている。		
	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援	本人及びご家族等の希望に応じて、主に在宅時のかかりつけ医又は協力病院と連携をとるようにし、通院介助など適切な医療の支援に取り組んでいる。	○	定期的にかかりつけ医の往診を受けながら、異変や緊急時には往診又は受診をするなどの適切な対応をしている。
	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援	かかりつけ医と相談しながら、必要に応じて診断や治療が受けられるよう支援している。		
	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している			
45	○看護職との協働	職員に4名の看護職が在籍しているので、質の高い健康管理体制であり、医療支援も適切である。	○	医療連携体制にて、急変時の対応や緊急連絡網の整備もなされている
	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている			
46	○早期退院に向けた医療機関との協働	家族と相談し、早期退院に向けて医療機関等へ働きかけて、退院に至った利用者もいる。		
	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している			
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有	家族と何回も話し合いを持ち、家族の了解の許に終末期のケアに取り組んでいる。その間、かかりつけ医や家族双方への意思確認も随時行っており、職員も周知して取り組んだ。	○	家族の面会時等、加齢に伴い少しずつリスクが大きくなる事の説明をしている。一人ひとりのリスクを捉え、抑制のない暮らしを大切にしている。
	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援	家族の意思を尊重し、かかりつけ医と密な連携を取りながら最終的な看取りをした。重度化した利用者に対しても家族の意思を十分に理解した上で、本人・家族の意思に添った支援に取り組んでいる。		
	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている			
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止	退所時等は、必要な情報提供を行い、住み替え時等のダメージが少なくなるよう努めている。		
	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁等があっても大声で注意するような声掛けはせず、さりげなくトイレ案内したり、更衣を促すなどの対応をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何事に対しても本人の希望を尊重、優先しそれに添った支援をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先することなく、入居者の意思を尊重して、出来ることは時間をかけてもやっていただくように配慮し、食事や入浴等も一人ひとりのペースや希望に沿った支援を行っている。	○ 職員の都合で支援するのではなく、利用者本位の支援をするよう平常より職員には勉強会や研修等で周知するよう働きかけている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	職員が随時散髪や理容をして身だしなみに留意している。衣服についてもその時々助言しながら季節に合った衣服を身に着けている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好品を準備したり、好きな食材や苦手な食材はそれぞれ考慮して個別に対応している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒・喫煙の利用者はいないがおやつや飲み物に関しては本人の希望、及び家族の了解を得てそれぞれに対応している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援	排泄チェック表を作り定期的な声掛けをしているが、利用者によってはトイレ案内を拒否されたりとその日の状況により困難な時もある。		
	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している			
57	○入浴を楽しむことができる支援	本人の体調や気分を把握している、入浴日や時間を設定しているも、利用者の希望に柔軟に対応し、気持ちよい入浴支援をしている。		
	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			
58	○安眠や休息の支援	利用者が居室でゆっくり安心して休息・安眠できるよう、又本人の希望する時間に休めるよう支援している。		
	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している			
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援	一人ひとりの得意分野を活かしてそれぞれに合った支援をしている。	○	洗濯物を干したりたたんだり、又布団を干したり、野菜の収穫や庭掃除・又繕い物などそれぞれ得意な事を楽しめるよう支援している。
	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
60	○お金の所持や使うことの支援	ご本人・ご家族の意向で、現金所持はなされていないが、いつでも嗜好の買い物ができるなど、お金を使えるように支援している。		
	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
61	○日常的な外出支援	利用者の希望で散歩やドライブ、畑の見回り・収穫等を随時支援している。		
	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
62	○普段行けない場所への外出支援	町内の行事や催事に希望者は参加したり、又ふれあいバスで町内のドライブを楽しんだりと外出への機会を作っている。		
	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援	手紙代筆の希望は無いが電話に関しては本人の望む時間や相手に電話をしている。		
	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
64	○家族や馴染みの人の訪問支援	気軽にいつでも訪問できる雰囲気作りに努め、一緒にお茶等飲んでいただき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している			
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践	職員会議やケア会議で理解を深め、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる			
66	○鍵をかけないケアの実践	運営者及び全職員が、職員会議やケア会議などで鍵をかけることの弊害について理解を深め、鍵をかけないケアに取り組んでいます。日中は全く施錠せずオープンにしてあり、自由な暮らしがある。		
	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
67	○利用者の安全確認	職員は、常に目配り・気配りの大切さを理解し、利用者の所在や様子を把握して、安全に配慮している。		
	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している			
68	○注意の必要な物品の保管・管理	全利用者の薬はホームで保管・管理しており投薬に関しては個々に対応しており危険性は殆ど無いと思われる。		
	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている			
69	○事故防止のための取り組み	職員会やケア会議等で事故防止についての知識を学び、利用者一人ひとりに即した事故防止に取り組んでいる。	○	質の向上委員会を中心に分析し検討しているが、事故防止対策委員会の設ける予定
	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え	マニュアルの改正や、緊急連絡網を見直し急変や事故発生時に備えている。		
	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている			
71	○災害対策	消防署の協力と指導を得ながらマニュアルに基づいた年2回以上の訓練を実施。又緊急時の連絡網も整備している。	○	ホーム内での避難訓練もユニット毎で実施。
	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い	家族の面会時等、加齢に伴い少しずつリスクが大きくなる事の説明をしている。一人ひとりのリスクを捉え、抑制のない暮らしを大切にしている。	○	高齢者はいつでも緊急事態が起こりうる事を面会時に話している。
	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応	毎日のバイタルチェックや連絡帳・引継ぎ等、情報の共有化を図っています。異変に気づいたらその日出勤の看護師と速やかな対応をしている。	○	バイタルチェック時異変があれば何回でもチェックし看護師と連絡を取りつつ対応。又場合によってはかかりつけ医とも連絡を取り速やかな対応をする。又連絡帳や申し送り等にも情報を共有する。
	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている			
74	○服薬支援	健康管理チェック表にお薬説明書を添付し内容を確認しながら、個々の薬の管理・整理に努め、適切な服薬管理をしている。		
	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている			
75	○便秘の予防と対応	排泄チェック表を参考に便秘の続く利用者に対しては水分補給、ヨーグルトや繊維の多い芋類を取るようこころ掛けており又必要に応じてかかりつけ医の指示を仰ぎつつ下剤や緩下剤や看護師による排便や浣腸等で対応している。		
	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる			
76	○口腔内の清潔保持	毎食後の口腔ケアを、自立の方には声かけし、介助の必要な方はケアしている。	○	毎食後口腔ケアの声掛けと洗浄の支援をしている。夜間は義歯洗浄後「ポリドントにて」消毒保管。起床時使用の声掛けをしている。
	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援	電解還元水を開設時から設置しており、食事状態・水分摂取量を把握・記録し、情報を共有して対応しています。水分補給の重要性を職員が熟知しており、事ある毎に水分補給に努めている。		
	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
78	○感染症予防	マニュアルの作成及び勉強会の実施や消毒水の使用等衛生管理に努めている。	○	玄関にマスクと消毒液を準備し外来者に備えている。利用者に対しては洗面台に手拭おしぼりを準備し手洗いの声掛けをしている。職員は各自タオルを準備し感染症防止に努めている。
	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）			
79	○食材の管理	消毒水の使用等衛生管理に努め又新鮮で安全な食材使用に努めている。		
	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている			
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫	玄関周りに花や観葉植物を置いたりスロープの設置等工夫して、誰もが気軽に出入りできるようにしている。		
	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている			
81	○居心地のよい共用空間づくり	玄関やリビングにはゆったりと座れるソファが置いてあり居心地の良い空間がある。テーブルや玄関にはいつも新しい草花が活けてあり季節を感じる工夫をしている。		
	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり	何箇所もあるソファに各々お気に入りの場所で好きな時間を過ごせるよう共同空間の中にも一人ひとりに居心地の良い場所を提供している。		
	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮	居室には、布団・ダンステレビ等馴染みの家具の持込や慣れ親んだ好みのものを持ち込みそれぞれ過ごし易い生活空間を作っている。		
	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			
84	○換気・空調の配慮	温度計の設置や窓の開閉等、換気や温度調節に心がけ快適な生活空間作りをしている。	○	除湿器・加湿器等を季節に応じて使用しているが、夏の窓を開けての換気は勿論の事、冬でも定期的に窓を開けて換気するなどの空調に気を配っている。
	気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている			
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり	手すりやスロープの設置及び自動点滅式照明等、安全な歩行・生活が送れるように工夫している。	○	階段も一段一段が広めであり、昇降も職員が付き添い、安全面に十分留意している。
	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			
86	○わかる力を活かした環境づくり	居室入り口には一人ひとりの写真が飾っており、室内も大きなパネルにイベントや行事等のスナップ写真をコメント付きで飾っており本人の居室と分かるように工夫してある。	○	居室の壁には、パネルにイベントや行事等写真をコメント入りで貼っており、本人の居室とわかるように工夫してある。
	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している			
87	○建物の外周りや空間の活用	ベランダに花や野菜の栽培をして季節感や楽しい活動ができるようにしている。そして、テーブルやソファを設置し好きなときに寝転んだり皆でお茶を楽しんだりする空間がある。		
	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている			

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)